

コロナ禍に猛暑が重なり、業況は低調のまま

8月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

需要の回復や受注確保により持ち直しが散見されるものの、新型コロナウイルス禍に記録的な猛暑が重なり、全体的な業況は低迷したままとなっている。加えて、お盆休みの長期化もあり、操業度・稼働日数が低下。売上の確保に苦しむ状況が窺える。

製造業	食料品		パンは、猛暑の影響が大きく、売上・収益ともに減少。菓子は、お盆のお供物や敬老会の需要が始め、売上は戻りつつある。製麺は、業務用の落ち込みが続く中、好調だった一般家庭向けも一段落。酒造は、企業によりバラツキがあるが、前年並みの売上を確保。食肉は、豚肉需要が安定しており、業況は堅調に推移。
	繊維・同製品		繊維物は、展示会・販売会などへの出展自粛が続くほか、来シーズンに向けての商談がなく、先行き不透明な状況。刺繍は、未だ量産品の動きは鈍く、売上に結びつかない。繊維製品は、アパレル関連は動きが出始めたが非常に悪く、医療用ガウンの生産により、穴埋めができていない状態。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは、商談減少や都心への物流の滞りといった形で新型コロナの影響が表面化。生コンは、公共工事がメインの山間部で出荷が伸びている一方、平野部は減少。砕石は、幹線道路整備や災害復旧工事により売上が増加するも、収益は前年並み。砂利は、需要は前年並みだが、材料不足で生産量が低下。
	機械・金属		一部企業では、前年には達しないものの、受注が回復基調にある。鍍金は、例年よりもお盆休みを多くとる企業もあり、稼働日数が減少し業況悪化。電機は、台風等の災害に備えるための自家用発電機の需要が微増。自動車関連は、在庫圧縮の影響もあり、SUBARU関連の生産量が前年に近い水準まで回復しつつある。
	その他の製造業		木材は、販売単価下落を原木の仕入調整でカバーしているが、大変厳しい状況が続く。紙加工品は、観光地関連需要も例年の夏休みのような盛況ぶりはみられず、売上減少。印刷は、新型コロナの影響が業績に大きく響き始め、事業の見直しも視野に。ゴム製品は、新型コロナとお盆休みの影響で操業度低下。
非製造業	卸売業		新たな販売先を開拓するも順調な売上拡大には結びつかず、観光関連分野への販売は先がみえない状況。農産物卸は、旅館や飲食店における需要減が著しく、販売量が減少し業況が悪化している。医療機器卸は、コロナ禍で経営が悪化した医療機関向けの納入がやや停滞するも、レンタル事業が好調。
	小売業		家電小売は、新型コロナの影響で全般的な購買意欲の低下が窺える。生花小売は、お盆需要は前年並みだが、冠婚葬祭や法人需要が乏しく業況は厳しい。商店街は、迫りくるコロナの脅威と記録的猛暑で、人通りは寂しい。燃料小売は、販売量が徐々に回復傾向。中古車オークションは、成約単価上昇の中、小売の動向を注視。
	サービス業		温泉旅館は、GOTOトラベルの効果は感じられず、前年比6～7割の入込。来月以降、さらに厳しい状況を予想している。不動産取引は、梅雨明け後の晴天・気温上昇及び新型コロナの影響で北軽井沢方面の問い合わせが増加。建築設計は、設計・監理業務がコロナを理由に契約解除されることを懸念。
	建設業		塗装工事は、新型コロナ感染予防と猛暑により作業効率が悪化し売上減少。電気工事は、公共工事の発注が出てきたものの、民間需要が少なく業況悪化。建設工事は、下請業者の確保に苦慮。鉄構は、景気後退で鉄骨需要の落ち込みが懸念され、今後の動向を不安視。解体工事は、空き家補助金を利用した住宅解体が好調。
	運輸業		夏季休暇が長く稼働日数が減少したことに加え、新型コロナの影響もあり、輸送量が激減する非常に厳しい状況が続いている。野菜関連は、高温少雨の影響で生育が悪く、出荷量が落ち込み低調。小口配送は、新型コロナの影響がスポット配送と引越において顕著で、全体としても今までにないほど輸送量が減少。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 91.3(前月比+22.1%)「県統計課・7月」
- 求人倍率(季節調整値) 新規1.66倍・有効1.10倍「群馬労働局・7月」

- 大型小売店販売額 273億円(前年同月比+7.9%)「経済産業省・7月」
- 消費者物価指数(全国) 101.9(前年同月比+0.3%)「総務省統計局・7月」
(鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)